

げんでん 福井 ふれあい

GENDEN FUREAI FUKUI

1998 第2号 AUTUMN



横田信長

刀根坂の合戦

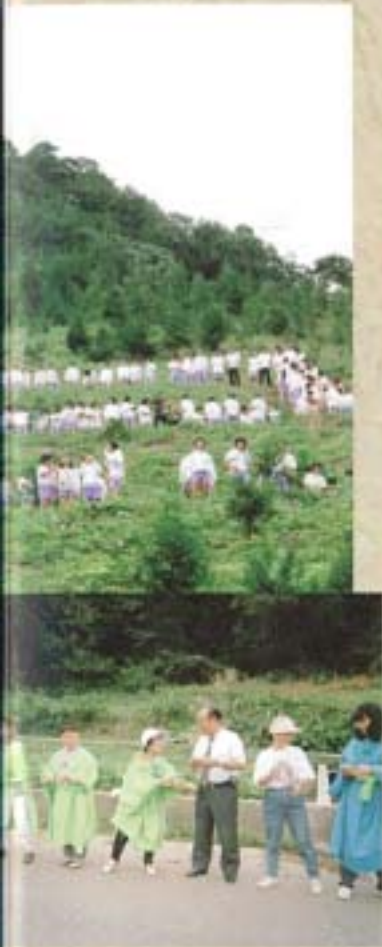
金辻子山

C O N T E N T S

越まほろば物語大祭	P2
敦賀市中学生ドイツ親善派遣帰国座談会	P4
第2回福祉寄席を開催	P6
敦賀開港100周年記念シリーズ(その1)	P8
ふくいの伝統芸能 上中町「三宅六斎念仏」	P9
情報ファイル	P10

越まほろば物語大祭

北陸地方で最大規模といわれる前方後円墳「六呂瀬山古墳群」などの歴史的文化遺産を現代に生かし、後世に継承しようとして「越まほろば物語大祭」が、9月23日・27日の両日、丸岡町九頭竜川鳴鹿大堰の下流周辺及び福井県グリーンセンターなどで、古代ロマンを再現する「大王祭」「六文字火」「石運び」「いざなぎコンサート」など古代史に魅せられた多彩なイベントが繰り広げられました。



表紙の説明



敦賀まつりの山車

敦賀まつり(9月4日又は北陸国別大祭)は戦国時代の合戦の様子を再現した山車が市内に繰り出して最高のお祭りです。

敦賀まつりの山車の歴史は古く、織田信長の在陣したとき山車を引き出し戦騎に供したと伝えられています。

昭和20年の戦災でそのほとんどを焼失、ほぼ完全に保存できたのは、敦賀市文化財「歴史史料」として指定された「唐に橋山車」「唐に子山車」「新所子山車」の3台だけとなりました。山の形は北陸人形ですが、基座に用いた具足や笠は、いづれも具足師や彫師が制作した相当貴重な作品。また人形を載せる山や馬に金、銀、銅など高純度の金物が多く用いられ、美術・工芸的にも高い水準にあるものが使用されています。

六呂瀬山古墳群(丸岡町) 古代ロマンを再現

1600年前、九頭竜川の中流域(高志、坂井、奥越)の山間から一気に拡がる場所に位置した福井県丸岡町鳴鹿地区は、北に六呂瀬山古墳群(丸岡町)南に手線ヶ城山古墳群(松岡・永平寺町)などを擁していました。

これは「越の王墓」ともいわれ、今ではこの地域一帯が福井県の古代ロマンを想ふ文化ゾーンを築いています。

この真秀ろばを地域の人々の手で守り育て現代に活かした形で学び、後世に伝えるようと平成元年、この地域をあげて「越まほろば物語編纂委員会」を結成。以来同委員会は、丸岡町と共催して、この古代イベント物語を10年間継続して展開してきました。「この活動の輪が効を奏し、国史跡として、土地買上げも終り、公歴化の一步を踏み出しています。」

今年、この10年の軌跡をまとめる節目の年として「越まほろば物語大祭」と位置づけ多彩なイベントを企画。

敦賀市中学生ドイツ親善派遣 帰国座談会



ドイツ観光（ケルンにて）

派遣生徒：川北あゆみさん（松陰中）、岸 輝貴 君（西浦中）
播 麗未奈さん（氣比中）、樋口敬子さん（粟野中）

同行の先生：元山つや子教諭（粟野中）

やさしく親切だったホストファミリー
ドイツ語・歴史・文化を勉強して
もう一度行きたい

（財）げんでんふれあい福井財団と日本原子力発電（株）の共同主催により敦賀市内の中学生4名が7月24日から8月3日まで11日間ドイツ連邦共和国を親善訪問しました。
この派遣事業は、当財団設立と日本原電創立40周年を記念し、国際的視野に立った人材の育成と友好親善を深めようと初めて計画したもので、今回の親善派遣に参加した中学生と同行された先生にドイツでの体験、感想などについてお話を伺いました。

ドイツ訪問日程

7/24 日	敦賀発成田へ（東海中学生と合同）成田泊
7/25 日	成田発 オランダ、アムステルダム着泊
7/26 日	空路 ドイツ シュトゥットガルトへ ネッカーベストハイム着（ホームステイ）
7/27 日	ゲムリッヒハイム中学校訪問、交流会 GKN原子力発電所見学（ホームステイ）
7/28 日	ゲムリッヒハイム中学校授業参加 町役場表敬訪問（ホームステイ）
7/29 日	トリップスドルフ遊園地、観音会 （ネッカーベストハイム泊）
7/30 日	ハイデルベルグへ（ハイデルベルグ泊）
7/31 日	ライン川下り（ケルン泊）
8/1 日	ケルン、デュセルドルフ市内視察 （ケルン泊）
8/2 日	空路、帰国へ
8/3 日	成田空港第一教員へ



樋口さん

司会 初めてドイツに行かれて、まずドイツの第一印象は？
全員 緑が多く、丘の上の多くのお城は、またヨーロッパ的だった。
赤い屋根と白い壁、道も石畳で、家の窓ガラスがヒカヒカだったのが印象的でした。ドイツでは窓ガラスがその家の顔であると感じました。
司会 ホームステイを3日間経験されたようですが、ドイツの生活、食事、家族など日本と比べてどのような感じましたか。
樋口 近所の人もやさしく、知らない人でも挨拶してくれ、親しみをおぼえました。



ゲムリッヒハイム中学校での交流会

播 生徒達は背が高く、スタイルも良く、大人っぽいという感じがしました。映画など流行っているもの話では盛り上がりました。
川北 学校は外観からは学校には見えない建物でした。生徒はのびのびしていました。
司会 中学校での交流会で書道やヨー



元山先生

岸 ホームステイ先ではお風呂が1階と2階にあり、クーラーはありませんでした。ドイツでは湿度が少ないので、気になりませんでした。暇な時はゲームなどをやりました。家族の人はとても気を遣ってくれていたと思



播さん

播 初日はすごく緊張したけど、2日目からはホームステイ先の家族の友達がとても気を遣ってやさしくしてくれたので、緊張がほぐれ、意思疎通ができたと思います。



岸君

います。
川北 食事は家族全員揃って食卓を囲み、家事なども全員協力してやりました。テレビはありましたが、見ないで家族団らんの時間がほとんどでした。



川北さん

ヨーなどいろいろなプレゼンテーションを実施したようですが。
川北 言葉は通じなかったけど、私達がやっていることを良く見てくれて、打ち解けてくれたと感じました。

播 浴衣姿の時、ドイツの生徒が私が着ているので苦しくないかと心配してくれました。「折り紙」をやっているときに、教えてくれたといわれ、鶴やコアラなどを教えてあげたら、大変喜んでくれたので楽しかったです。
岸 ヨーヨーの練習をしていたら、回りに集まってきてくれて適しかったけど、集まりすぎて少し困りました。ドイツでもヨーヨーをやっている子もいるようでした。
種口 習字では筆順を教えてあげたら、わかってくれて、興味深い様子でした。
司会 ドイツの町・文化などに接して、日本と比べてどう感じましたか。
川北 町の雰囲気と古い建物がすごくマッチしていました。
岸 町は広々としていて、歩いていても落ち着く感じがしました。日本もあのような町作りをしたとと思います。
播 建物の雰囲気と道路がマッチして街全体に風格がありました。公園では大きな池に力モなどがいて、自然と調和がはかられ、ゆったりしていると



帰国報告会風景

感じました。
種口 町も日本と比べて緑が多かったし、道は右側で歴史を大切にしているドイツという感じがしました。
司会 今回の経験を今後どう活かされますか。
全員 これからドイツの歴史、文化などを勉強して、ドイツ語も話せるようになって、もう一度ドイツにいきたいです。

元山 たくさんの中学生連にこのような経験をして欲しいと思います。行くに当たっては、その国の歴史・文化・言葉を勉強して行くこと、最低限、英会話を覚えて行くことが大切だと痛感しました。学校では今後更に、国際理解教育に力を入れる必要があると思います。

第2回「福祉寄席」を開催

障害者・高齢者6福祉施設で



入所者と記念撮影（美山荘にて）



財団では、高齢者・障害者とのふれあい交流を通じ「人にやさしいまちづくり」を進めるため次表の日程で第2回「福祉寄席」を県内を巡回して開催しました。

いづれの会場も最寄りの福祉施設や敬老会・ボランティアの方々も参加され、6施設、延900人の方々が集り、極めて盛況でした。

今回は、上方落語界桂春團治一門で人気トップクラスの桂春之輔師匠を招き、古典落語「平林」や「せんざい公社」などお年寄り向きのおぼなしを折りまぜて披露。途中、師匠は舞台から聴衆の中に飛び入り、インタビュウを行うなど参加者にとけ込んだ演出に、会場は爆笑の渦にわき、楽しい一刻を過ごしました。

この福祉寄席に際し、入所者をはじめ施設の職員、ボランティアの方から好意ある感想が寄せられました。次の方々の声を紹介することにしました。

月日	福祉施設	所在地
7月8日	深山荘	敦賀市
7月9日	小浜福寿園	小浜市
7月9日	若越みどりの村	武生市
7月10日	美山荘	美山町
7月10日	九頭電ワークショップ	勝山市



桂春之輔 師匠

若越みどりの村

中嶋清子さん

私は、昭和23年生まれの満49歳の女性です。「若越みどりの村」に入所して早や10年の歳月が流れました。

身体にハンディーを持った私達は、仲間であれば分からない悩みと喜びがあります。

この度の「福祉寄席」で、著名な落語家の生出演に接したのは生涯で初めてであり、「嬉しかった」の一言につきまします。特に、仲間を代表して「花束」を贈らせていただき、優しく肩を抱かれた時は、内から込み上げてくる感動で全身から新たなエネルギーが込み上げてきました。自慢するようで一寸恥ずかしく思いますが、「第28回武生市民文化祭「詩」部門」で佳作に入選したこともあり。しかし、この時は仲間と感動を共有するというものにはありませんでした。感動の種類が別のもの、という思いがあります。

今はただ「のびやかな機会がまた訪れること」を、仲間と切望しております。

小浜福寿園

川崎 暁子さん

げんでんふれあい福井財団より「福祉寄席」を小浜福寿園で開催していただけという結構なお話があり、私達職員は楽しみました。しかしお年寄りにとって落語を楽しんでもらえるか、むづかしくはないかと心によぎりました。その思いを伝えると主催者の方は「そこは一流の芸人さんや。その場の雰囲気をつかんで上手に話を合わせるるのでそんな心配いりません。」といわれましたのでみんなでその日が来るのを楽しみにしていました。隣の老人ホーム「観海寮」や入所者の家族の人にも声をかけ、当日は大勢の観客になりました。

桂春之輔さんが登場され、自分の親



のことや、ミヤコ蝶々さん、きんさんぎんさんのお話を折り込みながらの小話で笑いを誘い、また客席に下りて来られ、お年寄りにマイクを向けられての軽妙なやりとりなど和やかな雰囲気でも盛り上がりました。

本当にありがとうございました。

ボランティア睦会

中村 聡代さん

福祉寄席を1月と7月の2回、深山荘の入所者の方々と一緒に参加しました。

落語はラジオではよく聞くことがありますが目の前で聞くのは初めてでした。みんなで大きな声で笑い、師匠の話し方や動作を興味深く見せていただき、さすが芸人だなあと感じました。

地域のお年寄りに来荘されて、地域福祉のふれあい活動として新しい絆と信頼ができ、ボランティアの一員としてこのような催し物を今後も続けてほしいと思います。

光が丘ハウス

安田 英昭さん

三代目桂春回治のお弟子さんの桂春之輔さんが慰問に来られました。「ゼンざい公社」などの小ばなでした。どれも大変おもしろかったです。

ミヤコ蝶々さんや森光子さんなど芸能人の話もされ、お二人とも私より一廻り年上の78歳で元気だということがわかりとても驚きました。

私たちには落語を聞く機会が少ないので、また来てほしいと思いました。

ボランティア活動紹介

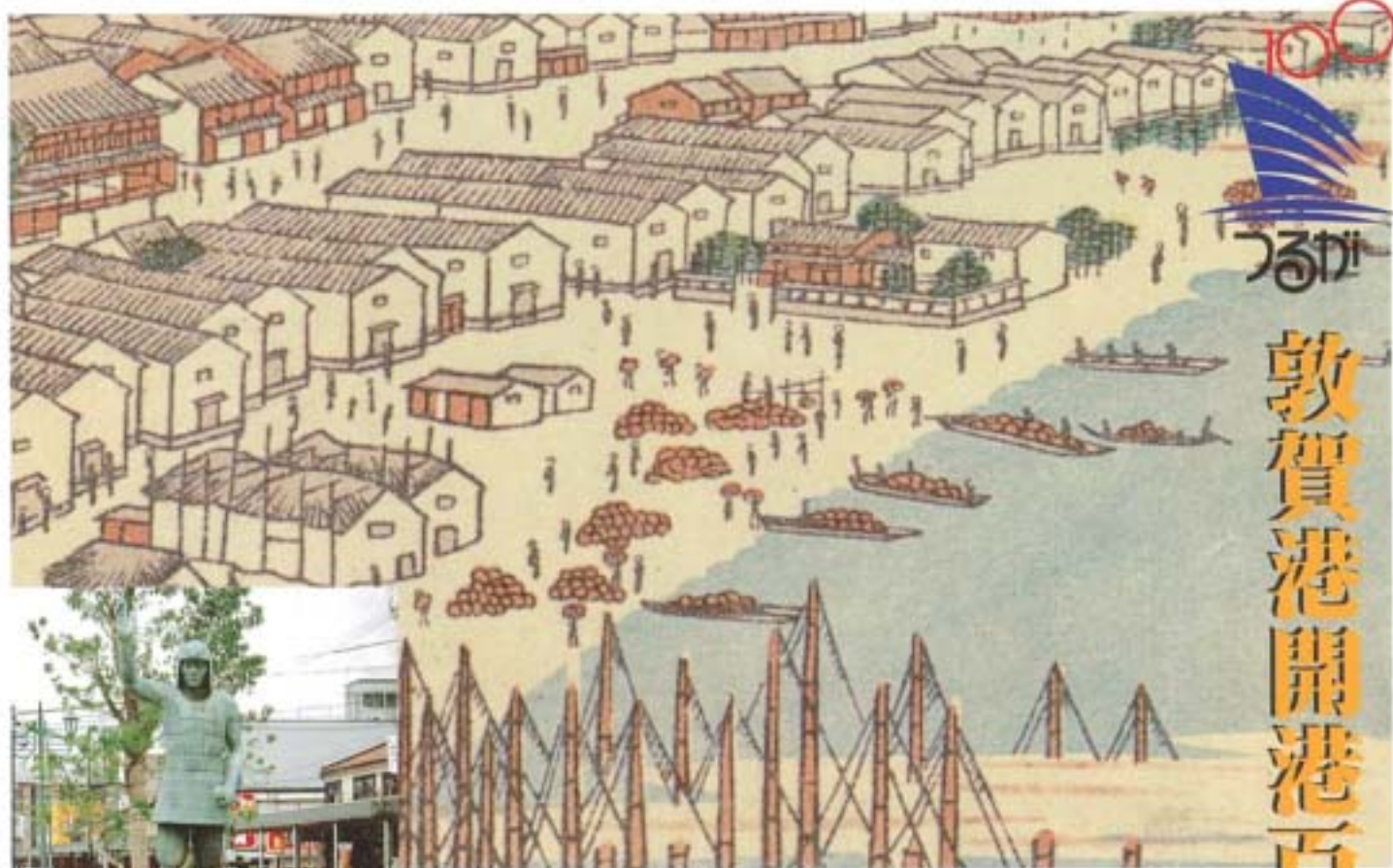


福井骨髄バンクサポーターの会

同会は平成6年に発足。代表井上直子さんから会員50名、福井県内において骨髄バンク事業への理解と支援を呼びかけ、贈病生活を送っている人々のよりよい環境づくりを目指し、多くのドナー協力を募るため、会報発行、街頭キャンペーンなど幅広く活動しています。今年も、子供達に命の尊さを訴え、夢を持って21世紀を迎えようとして8月23日、県民会館で「ぼくらの7日間戦争」などで知られる宗田理さんの「見える未来と見えない未来」と題した講演会を開催。中高生ら約250人の参加者により「子供達に生きる力をはぐくむ」メッセージを送りました。国内のドナー登録者は8月に10万人を越えましたが、30万人のドナーを目指し全国の仲間と手を結び骨髄バンク登録の呼びかけや病気の発見をなくす運動に取り組んでいます。



敦賀港開港百周年記念シリーズ(その1)



開港前の敦賀港

敦賀港は悠久2千年の昔から簡飯浦（ひつくりのうら）と呼ばれ、古代日本の三代要津として繁栄してきた港で、崇神天皇の御代任那の王子「都怒我阿羅斯等」の来朝に因んで、角鹿（つが）という地名を賜ったといわれています。

高句麗・新羅・唐慎時代から渤海・高麗・宋の時代には、敦賀は日本の最先端・文物情報交流基地でありました。このために来朝者の迎賓・交流・宿泊・海運検疫を兼ねた、松原客館が設置されたものと考えられます。

また、平安時代の法律書の証書には、敦賀を都と結び国津としています。江戸時代には銀両や北国との交易で繁盛して豪商が次々に誕生し、時の流行作家の井原西鶴は「敦賀港の通行税が毎日10両平均もあり、大阪の淀と肩を並べる繁盛の地で、北国の都」といっています。

当時は米・豆類・雑穀・紅茶・海産物・木材・鉄・鉛等を移入し、茶・薬工品・生糸・雑貨・漁具・建設資材等を移出して、ピークには3千艘の千石船が入り

ました。

こうした時代を経て、日本が近代国家として世界諸国の仲間入りをする明治の御代が建てられたのです。

いよいよ国際貿易が開始されたわけですが、それ以前幕末は条約によって、横浜・神戸・長崎・函館等7港を開港しましたが、伸びる日本経済に7港だけでは対応できず、特別貿易港・特別輸出港・開港外貿易港の制度を定めて、取敢えず急場を凌いできました。敦賀港も明治28年10月2日、開港外貿易港に指定されています。敦賀港はその指定前に北陸で最初の鉄道が、神戸と結ぶ計画で建設が始まり、明治15年（1870）3月に長浜・金ヶ崎間（榑ヶ瀬下を除く）が部分開業し、2年後に全面開通。明治22年7月、東海道路線が神戸まで開業すると同時に、米原へ延伸して東海道線に繋がりました。この効果は絶大で、敦賀港は他の日本海側諸港と比較にならない広大な後背地を港勢圏内に収め、輸送拠点として圧倒的優位に立ったのです。

創刊号「クローズアップ福井」で敦賀港開港100周年の歩みを総括掲載しましたが、日本海地誌調査研究会井上博氏より特別寄稿が寄せられましたので、本誌に3回にわけて特集することにしました。



シリーズ
ふくいの
伝統芸能

国選無形民俗文化財

上中町「三宅六斎念仏」



お寺での念仏踊「いまばい」

上中町の三宅六斎念仏は、昭和37年福井県無形民俗文化財（47年国選択）に指定された祖師供養の念仏行事です。

その由来は、約600年前、時宗を開祖された一遍上人により念仏踊として京都より伝来したものといわれ、六斎日（毎月6・14・15・23・29・30日）に八斎戒を守り、鼓陣、鈴などに鉦と太鼓を確しながら節をつけて唱える「念仏」といわれています。

毎年行われている六斎念仏の曲目は全部で6曲。獅子・牡丹・千鳥・柏分け・今ばい・和讃で、終りに門付念仏を唱えます。そのほか融通和讃、しばや和讃などの念仏もありましたが今は廃れています。

この踊りの主役は子供（10才から14才）6人を1組として、袂束はゆかた姿、鉢巻で、尻からげて踊ります。手には小太鼓をバイ（棒）で、腰には餅りふさのついたバイをさし、仏前に向い、6人の輪をつくり、念仏者（保存会の人）の音頭で、鉦に合わせそれぞれの曲目を踊ります。

上演は8月13日・14日の2日間、夕方より打ち始め80戸を2日に分け、昔からの回る順序に従って集落内を回り

ます。

8月15日は菩提寺（久永寺）で施餓鬼法要の後、本堂仏前で全曲目を打ち参観に供します。24日（盆）には、夕方から2ヶ所にある地藏堂の前で打ち、この年の総ての行事を終わります。

地元では、この伝統ある行事を保存、継承するため保存会を結成し、鉦や太鼓の新調を図るほか、行事の前から子供連の参加を得て保存会の指導で後継者の育成に努めています。



新仏の家で踊る「和讃」





国際友好の輪 武生で国際音楽祭(6月) 勝山でアスペン音楽祭(8月)

「武生国際音楽祭'98」は同推進会議の主催で6月5日から14日の10日間武生市文化センターを主会場に周辺市町の学校、社寺などで繰り広げられました。今回はカナダ、オランダの音楽祭とリンクし、各国一流の演奏家が武生に集り、各音楽祭の仲間達によるフェスティバル、アンサンブルの参加やタケフ・インターナショナル、トリオの登場など多彩な音楽イベントが延1万人を超える参加の中で行われました。

この音楽祭は9回目を迎え、音楽を通し市民との交流を深め演奏家滞在型の国際音楽祭として定着し、高い評価と成果をあげました。

一方、「勝山アスペン音楽祭'98」はかつやま音楽交流協会の主催で8月22日・28日の同日、勝山市民会館大ホールで開かれました。22日は永田郁代さんのピアノ演奏やアスペン音楽祭祝祭合唱団などによる市民コンサートを開催。

28日には、桐朋学園大学の原田幸一郎弦楽器部門主任教授やメトロポリタン歌劇場管弦楽団メンバーのネディン・エイシンさんらが出演。フルート四重奏、クラリネット五重奏などを披露。訪れた市民は世界の検舞台で活躍する演奏家の美しい旋律に魅了されました。

この音楽祭は今年で8回目、勝山市とアスペン市(米国)が音楽を通じて親善友好の架け橋となっています。



「ブラームス：クラリネット五重奏」を演ずるアスペン音楽祭

福井能楽会 「蓮如」を上演



第29回福井能楽会が9月15日、福井市能楽堂で福井幽蘭会・日本原電 株・当財団主催で開催されました。この催賞会は昭和45年以来実に29回目を数え、県内外から有名な定期能として評価されているだけに約500名の観客でうまりました。特に、第2部では蓮如上人ゆかりの本県で、新作能「蓮如」が上演され、片山九郎右衛門師らの素晴らしい能舞割きに観客を挙げて陶醉しました。

長年、福井幽蘭会を主導されてきました同会代表富永謙介氏(観世流名誉師範・福井県観世能楽会長)は次のように語っています。

「日本が世界に誇る伝統古典芸能である能楽を次の世代を担う若い人達に継承しようと「福井能楽会」を毎年企画し、本年で第29回目を迎えました。その理念に同意されご指導をいただきました片山九郎右衛門師(芸術院会員 日本能楽協会会長)らのご好意に心から感謝するとともに、微力ながら、今や県内外に福井の定期能として期待されるまでになりましたことに感謝ひとしおのものがあります。

特に今年は、蓮如上人5百回大遠忌にあたり新作能「蓮如」を真宗門徒の多い福井の地で上演できて、しかも盛況裡に開催できましたことは私にとっても大きな喜びです。

来年当会は創立30周年を迎える意義のある節目に当たりますので、若い世代へ鑑賞しやすい能楽の普及と伝統芸能の継承のために更なる努力を重ねたいと願っています。」

10年度応募財団助成金決定 (第1次)61団体1356万円

財団では、平成10年度助成事業について4月より県内文化団体等に推薦制及び公募方式により募集を行い、7月末、応募申請のあった団体について「助成事業取扱要綱」に基づき審査会及び選考委員会で審議。その各申を得て、第1次分として61団体(推薦制によるもの26団体、公募方式によるもの35団体)助成金1356万円を決定しました。事業別にみた決定団体の内訳は次のとおりです。

- ◆地域文化の振興事業(郷土史、文化保存伝承・文化団体等活動・国際文化交流・文化のまちづくり助成事業)
29団体 589万円
- ◆ふれあい・ゆとりの創造事業(ボランティア団体・各種文化サークル・環境保全等地域づくり助成事業)
16団体 194万円
- ◆芸術鑑賞機会の提供・文化創造事業(芸術公演・市民参加型芸術文化助成事業)
16団体 573万円

文化イベント案内(10~12月)

福井県市町村文協 選抜美術展	10/15(水)~ 18日	武生市体育館
第11回源氏物語 アカデミー	10/23(金)~ 25日	武生パレスホテルほか
大飯町文協10周年 記念音楽祭	11/1日	大飯町総合運動公園 「悠久館」
美浜町文化講演会 (講師 神田 紅)	11/2日	美浜町中央公民館
芳樹会創立55周年 記念舞踊公演	11/8日	福井市文化会館
バレエと大正琴クロス オーバーコンサート	11/8日	福井市 ハーモニーホールふくい
WCA(若狭合唱協会) 合唱祭	11/15日	美浜町保健福祉センター
「若狭小浜の偉人物語」 舞台発表公演	11/15日	小浜市文化会館 大ホール
「万葉の里・恋恋物語」 シンポジウム	12/13日	武生パレスホテル

●今回の「情報ファイル」では財団助成金の決定した県内の文化・芸術イベントを中心に紹介しました。

文化遺産を核に町づくり —小浜・第1回フォーラム—



小浜町のまちづくりを考える「若狭町づくりフォーラム」が8月20日夜、同市働く婦人の家で行われました。同市西部地区環境整備協議会が主導で、歴史と文化を活かした町づくりを推進しようと初めて開いたもの。

辻市長から「西部地区街並み保存の条例制定を提案しその実現に努力したい」との挨拶をはじめ講演やパネルディスカッションを展開。訪れた約100人の市民とともに今後の町づくりの方向性を探りました。

第11回 「福井コールアカデミー」演奏会



昨年10周年を迎えた「福井コールアカデミー」は7月5日県立音楽堂大ホールで定期演奏会を開きました。

今回は、合唱指導の専門家で新進気鋭指揮者雨森文也氏の客演指揮で演奏を発表。郷土の詩人による松村勇作品集「酒1」「酒2」や合唱組曲「海の詩」など出演者47名は合唱音楽を好演しました。当日は中高生合唱部員を招待するなど950人の観客から大きな拍手が寄せられました。

第1回「ふるさと大賞」写真コンテスト

締め切り 12月15日

テーマ：ふるさとの海・川



大賞賞金

30
万円

主催：(財)げんでんふれあい福井財団
 後援：福井県/福井県教育委員会/敦賀市/敦賀市教育委員会/(社)福井県文化協議会/福井新聞社/福井放送(株)/福井テレビ
 協賛：福井県カメラ商組合/富士写真フィルム(株)/(株)フジカラー

部門

学生部門(高校生以上)・一般部門・一般女性部門の3部門

資格

- 1) 福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること
- 2) 写真の専門家(プロカメラマン)ではないこと

作品の規格

カラー・モノクロで四つ切又は四つ切ワイドの単写真

審査員

特別審査員：戸田正寿氏(アートディレクター)
 審査委員長：八木隆氏(福井県写真家協会会長)

応募先

- 1) 〒914-0051
 福井県敦賀市本町2-9-16
 (財)げんでんふれあい福井財団
- 2) 福井県カメラ商組合加盟店
 及び県内フジカラー取扱店

ふるさと大賞 1点……30万円
 ふるさと賞 3点
 学生10万円1点/一般20万円1点/女性20万円1点
 優秀賞 6点
 学生5万円2点/一般10万円2点/女性10万円2点
 入選 35点 (記念品)
 学生5点/一般20点/女性10点
 佳作 35点 (記念品)
 学生5点/一般20点/女性10点

財団イベント INFORMATION

関西フィルハーモニー管弦楽団 「弦楽器によるビートルズコンサート」	平成10年11月5日(木)	敦賀市 市民文化センター
「狂言」鑑賞会 狂言師(人間国宝)茂山千作師出演	平成11年1月28日(木)	敦賀市 プラザ萬象
東京シティフィルハーモニック管弦楽団演奏会	平成11年1月31日(日)	福井市 ハーモニーホールふくい